

SHIRAKOBATO

しらこぼ



2003. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 236

日本野鳥の会 埼玉県支部

亜種に注目！

海老原美夫（さいたま市）

●「亜種」ってなに？

鳥類の分類は、「目(もく)」「科」「属」「種」の順になっています。例えばスズメですと、「スズメ目ハタオリドリ科スズメ属スズメ」となります。最後の「スズメ」が種の名前です。

ひとつの種の中で、地理的あるいは生態的に隔離されたために形態に差が生じている場合、「種」の下の分類として、さらに「亜種」に分類します。

野鳥の会の探鳥会など、通常の場合は「種」段階で識別できればいいのですが、さらに細かく季節ごとの生態などを見ていくと、「亜種」レベルの識別が必要になる場合があります。「亜種」レベルの識別をすることで、普段のマイフィールドの鳥見も一段と興味が広がります。というわけで、今回は亜種に注目のおすすめです。

●「亜科」についてのおまけの解説

日本野鳥の会発行の『フィールドガイド日本の野鳥』など、少し古い野鳥図鑑などでは、「科」と「属」の間にもうひとつ「亜科」というレベルがありました。ヒタキ科のツグミ亜科、ダルマエナガ亜科、ウグイス亜科、ヒタキ亜科、カササギヒタキ亜科がそうです。

ところが、2000年9月15日に発行された日本鳥学会の『日本鳥類目録改訂第6版』では、それぞれツグミ科、チメドリ科、ウグイス科、ヒタキ科、カササギヒタキ科になりました。つまり、今は「亜科」という分類はなくなっています。

●カワラヒワの場合

鳥類目録第6版によれば、カワラヒワの亜種は、

オオカワラヒワ

Carduelis sinica kawarahiba

カワラヒワ

Carduelis sinica minor

オガサワラカワラヒワ

Carduelis sinica kittlitzii

の3亜種です。(学名は最初が属名、次が種名、最後に亜種の名前です。)

このうち亜種カワラヒワが、北海道以南で繁殖し、県内でも一年を通して普通に見られるカワラヒワです。前は、「亜種コカワラヒワ」と呼ばれていました。

また、亜種コカワラヒワよりひとまわり大きくて北海道で繁殖するものが亜種カラフトカワラヒワとされていましたが、今はその亜種は認められておらず、亜種カワラヒワの中に含まれています。

この冬特に注目していただきたいのは、亜種オオカワラヒワです。

●亜種オオカワラヒワ



亜種カワラヒワに比べてひとまわり大きく、全体の色が少し薄く見え、特に三列風切外弁の白が幅広いのが特徴です。要するに、オオカワラヒワを横や後ろから見ると、翼の縁取りの白い部分が幅広く見えるということです。

日本には冬鳥として飛来します。草原で群れる亜種カワラヒワの中に何羽か混じっていることがあるというのが、今までの私の常識でした。ところが、今年の3月30日、さいたま市秋ヶ瀬公園子供の森で、桜の花に集まるシメやヒヨドリなどを見ていると、頭の上を30羽ほどの小鳥の群れが横切り、少し離れた樹冠にとまりました。

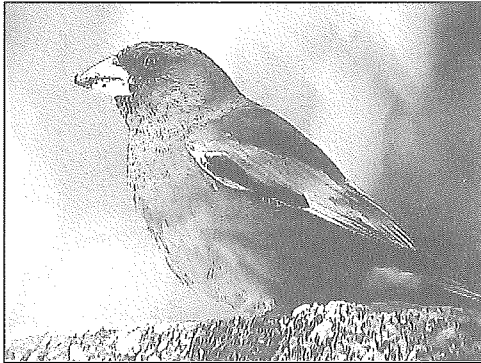
鳴き声からカワラヒワだと分かったのですが、念のため双眼鏡を向けてみたら、なんと、みんな亜種オオカワラヒワなのです。そのうちいっせいに林床に降り、草の実を争って食べていました。

林の中で 30 羽もの集団で行動する亜種オオカワラヒワを初めて見たのです。

私が知らなかっただけで、亜種オオカワラヒワだけの群れというのは、もっと多いのかもしれない。カワラヒワというだけであまり丁寧に観察してこなかった自分のうかつさを恥じ、この冬は注目したいと思っているわけです。

平凡社発行の『日本の野鳥 590』（写真：真木広造）には、「亜種オオカワラヒワよりやや大型の個体群も飛来しているという」とあります。もしかしたら……なんていう興味もあるわけです。

●亜種オガサワラカワラヒワについてのおまけの解説



亜種オガサワラカワラヒワは小笠原諸島と硫黄列島に留鳥として生息しています。埼玉県に飛来することはないのですが、今年の 4 月、小笠原母島で撮影できましたので、ついでにご紹介しておきます。

亜種カワラヒワよりやや小さめ、嘴は大きくて長め、三列風切外弁の白色部は幅広く、全体に黄緑色みが強いという特徴があります。このオスは特に翼の黄色部の面積が広く、雨覆まで黄色でした。メスは全体に色が褪せている感じでかなり地味でした。

何しろカワラヒワなんだから、小笠原に行けば比較的楽に見えるだろうと思っていたの

に、意外と個体数は少なく、帰りの船に乗るための集合時間ぎりぎり、港に近いところでようやくの出会いでした。

●ハクセキレイの場合

鳥類目録第 6 版に記載されているハクセキレイの亜種は、

台湾ハクセキレイ

Motacilla alba ocularis

ハクセキレイ

Motacilla alba lugens

ホオジロハクセキレイ

Motacilla alba leucopsis

の 3 亜種です。

そのほか、図鑑によれば、シベリアハクセキレイ

Motacilla alba baicalensis

ネパールハクセキレイ

Motacilla alba alboides

の 2 亜種も国内で観察されています。

山と溪谷社発行『日本の野鳥』（写真：叶内拓哉）によれば、それぞれの繁殖地は、

亜種台湾ハクセキレイ シベリア東部
亜種ハクセキレイ カムチャツカ、カラフト、
千島列島、沿海州、日本

亜種ホオジロハクセキレイ ウスリーアムール地方、中国中部から東部、朝鮮半島、台湾など 日本でも九州ほかで少数繁殖

亜種シベリアハクセキレイ シベリア中央部から東南部、中国北部。
となっています。

このうち、県内で観察された記録があるのは、ハクセキレイ、ホオジロハクセキレイ、シベリアハクセキレイの 3 亜種です。

台湾ハクセキレイの県内観察例は、私の記憶にはありません。私の記憶にないだけで、実際はあったかも知れませんが。

ネパールハクセキレイは与那国島で記録されているだけというので、埼玉ではあまり期待できないと思います。

●亜種台湾ハクセキレイ

過眼線があり、背中は灰色、胸の黒い部分が嘴の根元にまで伸びているのが特徴。主に

西日本や奄美大島、琉球諸島などで観察され



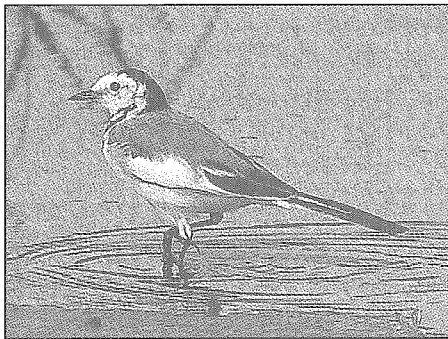
ています。この写真は、2001年5月、長崎県対馬で撮影しました。

●亜種ホオジロハクセキレイ

県内では、冬に時々観察されます。

過眼線がなくて、胸の黒い部分も喉でとまっているので、顔がずいぶん白く見えます。背中は黒いというのが日本の図鑑の記述ですが、どうやら幼鳥の背中は灰色らしいのです。

これは、今年の8月30日、さいたま市秋ヶ瀬公園近くで撮影した写真です。



ほかの特徴は亜種ホオジロハクセキレイを示していましたが、背中が灰色なので迷いました。

紆余曲折の後、『PIPIT & WAGTAILS of Europe, Asia and North America』という図鑑で背中が灰色の同亜種の幼鳥のイラストがあることから、これはそれであると判断しました。

ということ、県内で繁殖したのでしょうか。それにしては親らしい個体が観察されないのは、なぜでしょう。この冬、ほかにも観察されるのでしょうか。興味深いところです。

●亜種シベリアハクセキレイ

1991年11月7日から1992年1月19日まで、さいたま市三室地区の芝川で観察されました。県内では唯一の記録だと思います。



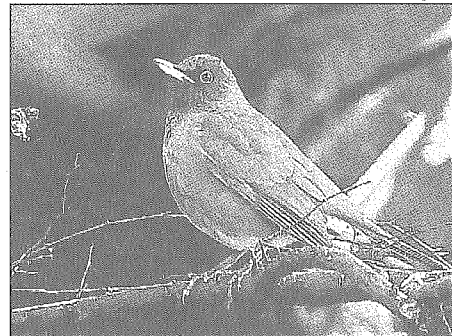
過眼線がなくて、胸の黒い部分も喉でとまっているのは亜種ホオジロハクセキレイと同じですが、背が明るい灰色であることと、雨覆が灰色で白い羽縁があることが特徴です。

鳴き声は、亜種ホオジロハクセキレイも亜種シベリアハクセキレイも、特に亜種ハクセキレイと違ったところはありません。

●亜種っておもしろいでしょう

見慣れてしまって、ああカワラヒワか、なんだハクセキレイかなんて、ほとんど双眼鏡も向けられないような鳥も、こうしてみると、簡単に見過ごせないかと、思いませんか。

亜種ダイサギ（前は亜種オオダイサギと呼んでいました）と亜種チュウダイサギの違いも面白いし、亜種シベリアアオジも県内で冬に観察できます。



亜種オオアカハラについては、本誌昨年4月号の表紙でもご紹介しました。

冬の到来をチャンスに、亜種の世界に足を踏み込んでみませんか。

2003年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2003年9月13日 9：40～11：30

場所：さいたま市 大久保農耕地

天候：晴れ

当日は台風14号が日本海を北東に進み、前線が日本海から北日本に延び、関東地方は真夏を思わせる暑い日になりました。また、3連休の初日でしたが、支部会員19名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された種数・個体数は2種113羽でした。9月に入ってから夏日が続き、田はほとんど乾燥していましたが、4年ぶりにムナグロが100羽を越えました。

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

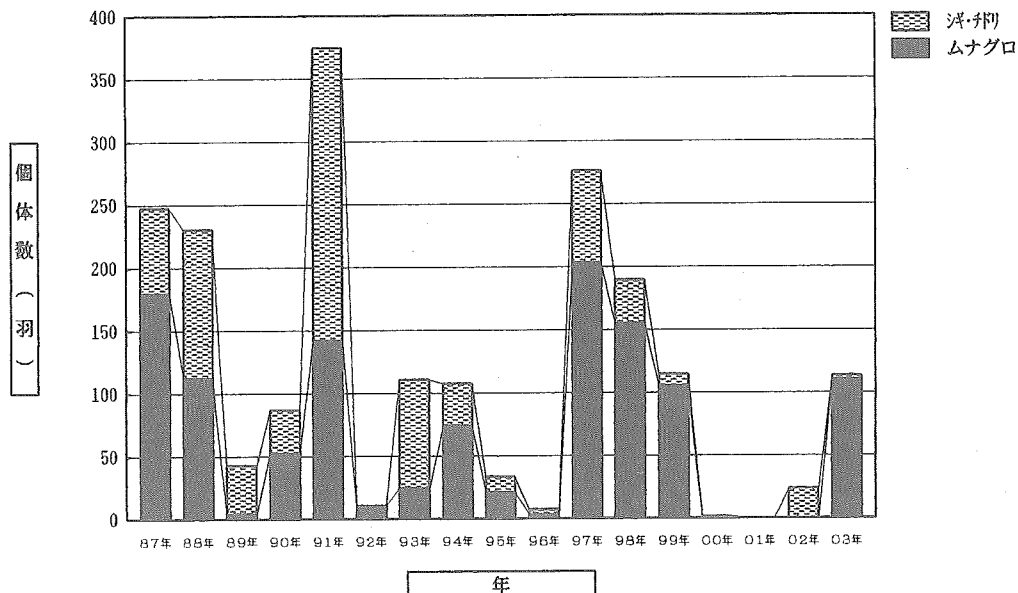
(石井 智)

2000年～2003年 秋のシギ・チドリ類調査結果

調査地	大久保農耕地 さいたま市			
	'00年	'01年	'02年	'03年
ムナグロ	—	—	—	110
タカブシギ	—	—	3	—
タシギ	—	—	17	3
オオジシギ	1	—	—	—
シギ類	—	—	3	—
個体数合計	1	0	23	113
種数合計	1	0	3	2

(注) シギ類はタシギかジシギ類なので、種数には入れませんでした。

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



はみ出し行事案内

年末講演会

日時：12月23日（火・祝）午後1時30分開場

会場：大宮ソニック市民ホール404号室

（大宮駅西口大宮ソニックシティ4階）

受付：先着順80名まで

入場料：100円（中学生以下無料）

第1部 午後2時～2時30分 ビデオで振り返るこの1年

第2部 午後2時30分～4時30分 講演

『生き物の形の理と動きの妙』

東昭氏（東京大学名誉教授）

航空機に関する日本の権威として有名。航空機だけではなく、飛ぶものすべてに熱い研究心を抱き、空飛ぶイカを追いかけたテレビ番組などでもよく知られています。

ご本人の言葉「飛ぶ生き物を主体に、彼らがどういう所に棲み（環境）、そこでどのように生きる（生態）かによって、形が変わり（形態）、動き方（運動）が異なるという素晴らしい合理的な美しさをお伝えしたいと思います。」

第3部 懇親会 希望者だけ。場所も会費も未定ですが、2003年の最後の懇親会で語り合いませんか。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：16年1月31日（土）～2月1日（日）

集合：31日午前7時50分、大宮駅西口。

費用：19,000円の予定（バス代、1泊2食付き宿泊料、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。

定員：24名（最小催行人員15名、先着順、支部会員優先）

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、榎本秀和

まで。

担当：榎本、橋口、中里、逸見

見どころ：日本一のカモメの名所へ、2年ぶりのバスツアー。たまには海の鳥も楽しんで見ませんか。

注意：宿は男女別相部屋です。個室のご用意はできません。



蓮田市黒浜 ◇8月29日、休耕田でオオジシギ1羽。タシギでないのは明らかだが、草の中で種類の分からないジシギ類1羽。9月22日、国立東埼玉病院（＝黒浜療養所）の林でサシバ1羽。10月3日水田地帯の3ヶ所でノビタキ合計8羽。10月4日午前9時頃、黒浜療養所に隣接する林で「シーッ」と鳴く鳥。おそらくアカハラかマミチャジナイかと思われたが、声のみで終わる。残念！ 10月5日、黒浜療養所内でオオルリ♂若鳥1羽、キビタキ♀1羽、他にヒラヒラ舞っている小鳥を見たが確認できなかった。10月7日、同所でキビタキ♂1羽♀1羽、オオルリ♀1羽。10月10日、同所でキビタキ♀2羽。10月15日、同所でメソムシクイ1羽、シジュウカラと一緒に（鈴木紀雄）。

岩槻市高曽根 ◇9月1日、クサシギ1羽が用水の干潟状の泥上で尾をふりふり採餌していた（鈴木紀雄）。

岩槻市野孫 ◇9月10日、草の生えた小さな水のたまった休耕田でジシギ類12羽。ほぼ全てがタシギと思われた（鈴木紀雄）。

岩槻文化公園 ◇10月1日午前7時頃、南東から北西へハチクマらしき鳥1羽が飛翔。ウグイスの地鳴き今季初確認。エゾビタキ1羽、コサメビタキ2羽、キビタキ♂1羽♀1羽、カケス5羽十。10月5日午前9時頃、エゾビタキ1羽。10月14日、シジュウカラ群れ中にエナガ1羽、キビタキ♀1羽、ヒタキ類1羽。コガモ2羽。10月15日、シジュウカラ、メジロ、コゲラ混群とともにエナガ4羽十。キビタキ♀2羽。ムシクイ類1羽、ツツドリ1羽、コガモ、ヒドリガモ等。カケスが多い（鈴木紀雄）。◇10月25日午前7時30分頃、オオタカ1羽、北から南の方へ飛んで行く。カケス5～6羽、木から木へ移動、シジュウカラ7～8羽とコゲラ2羽の混群、アオジ1羽、アオサギ1羽。モズが多く、あちこちで鳴いていた（藤原真理）。

春日部市内牧（宮代側） ◇10月7日午後、エゾビタキ約5羽、キビタキ♂2羽♀1羽、ヒタキ類1羽、ツミまたはハイタカ飛翔、オオルリ♂若鳥1羽、ムシクイ類2羽、カケス約5羽と非常に楽しんだ。10月8日、エゾビタキ1羽、アカゲラ♂1羽、カケス。10月9日、エゾビタキ約4羽、カケス、キビタキの声。10月10日、エゾビタキ3羽（鈴木紀雄）。

越谷市七佐町 ◇10月8日、午前6時45分頃、七佐町8丁目でコサメビタキ1羽。朝のフィールドコースで電線にスズメが3羽とまっていた。すぐ近くにスズメより小さい小鳥が1羽、下から見上げると白っぽく見えたので、よく観察したらコサメビタキでした。他にも今日もシラコバト3羽確認（小菅靖）。

越谷市大林 ◇10月19日午後1時30分、梅林公園でコゲラとシジュウカラの混群を観察した。枝から枝へと移動。見ているだけで楽しくなる。コゲラは、梅の太木を登ったり下ったり、また、木を回ったりと忙しく動きまわる。シジュウカラも負けじと枝にとまることなく次々と移動する。梅林公園の元荒川の土手からカワセミ1羽観察。左岸から飛んできて右岸柳の枝にとまる（小菅靖）。

越谷市西方 ◇10月27日、西方小学校で校舎の窓ガラスに衝突して、トラツグミ1羽落鳥。西方小学校では、昨年も一昨年も9月末にトラツグミが同じように校舎の窓ガラスに衝突して落鳥している。また、近隣の小学校で本年9月末に同じくトラツグミ1羽が校舎の窓ガラスに衝突、保護された。ただ、羽根が折れていたため、越谷市傷病野鳥保護制度により、現在西方小学校で保

護されている。この辺りは、トラツグミの渡りのコースになっているのかもしれない（山部直喜）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月19日、ピクニックの森でジョウビタキ♂2羽、♀2羽、アオジ1羽。ピクニックの森の水場でクロジ♀1羽とシジュウカラ4羽が水浴び（海老原美夫）。◇9月4日、子供の森でカッコウ科の鳥（赤色型）1羽（鈴木紀雄）。さいたま市見沼区大谷 ◇10月14日、大谷環境広場でタシギ17羽、雨が降って、水たまりとなった草地で餌をとったり、のんびりしたり（鈴木紀雄）。

戸田市彩湖 ◇10月19日、カンムリカイツブリ2羽、ノスリ1羽（海老原美夫）。

渡良瀬遊水池 ◇9月6日夕刻、葦原内で「ジュルジュル」と声。探したところ、オオセッカ1羽と判明した（鈴木紀雄）。

花園町黒田 ◇9月27日午前11時50分頃、荒川河畔でカルガモ群れ中にシマアジ♀タイプ1羽（鈴木敬）。

本庄市総合運動公園 ◇10月1日午前9時頃、カケス13羽、パタパタと利根川方向より早稲田の森方向へ。渡り？ 10月2日午前9時30分頃、カケス68羽、利根川方向から早稲田の森方向へ、途中オオタカ若鳥1羽に襲われ、大慌てで屋敷林へ舞い降りる（町田好一郎）。

本庄市小山川 ◇10月6日午前8時頃、小山川近くの桜の小枝でノビタキ4羽、メスっぽい♂4羽がフライングキャッチを繰り返していた（町田好一郎）。

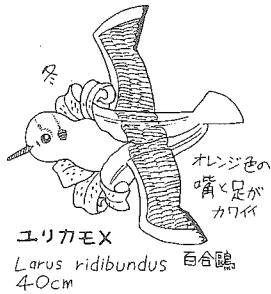
川越市南古谷 ◇10月11日、サトイモの葉にノビタキ1羽（鈴木紀雄）。

表紙の写真

ジョウビタキ（スズメ目ツグミ科ジョウビタキ属）

本誌野鳥情報欄によると、昨年のジョウビタキの初認は10月18日岩槻市岩槻文化公園、一昨年は10月22日さいたま市下野田地区。今年は10月19日ごろに各地で観察され、ほぼ例年通りの飛来です。しばらくは縄張りが定まりません。早く飛来した個体はさらに南を目指すのかも知れません。縄張りが安定するのは、12月になってからが多いようです。ちなみに、国内で観察されるジョウビタキは亜種ジョウビタキだけです。（編集部）

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：「あかぎれの母のおん手に触れにけり」この句のもつぬくもり、“今は昔”でしょうか？今回は鳥たちの冬越しの観察です。留鳥の他にもアトリ類、ツグミ類、カモ類などが加わってにぎやかです。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈ヘルシーロードコース〉

期日：12月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き8：31発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、土澤、新井(真)、石田

見どころ：たくさんの冬鳥たちが待ってまーす。数ヶ月ぶりのあの顔この顔。寒いけどやっぱり冬の鳥見はいいですよ。暖かい支度でご参加ください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月7日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7：11→春日部7：25→栗橋7：54→柳生8：04着。またはJR宇都宮線大宮7：08→栗橋7：43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、伊藤(隆)、内田、田邊、四分一、玉井、田村、中里

見どころ：今シーズンのカモの到着は遅いようですが、12月には目玉が出てくれます。きつと。谷中湖でカモを見た後は、谷中村史跡の林で冬の鳥を探します。風が大変冷たいので防寒支度は万全にしてお出かけください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、後藤、和田、森本、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、飛田

見どころ：大麻生も冬本番。鳥たちの冬越しをそっとのぞいて見ましょう。明戸堰の向こうにはコハクチョウの群も待っています。

岩槻市：岩槻文化公園探鳥会

期日：12月14日（日）

集合：午前8時40分、東武野田線岩槻駅前。
または午前9時20分、文化公園駐車場
（国道16号側）

交通：東武野田線大宮8：19発柏行き、または春日部8：24発大宮行きにて岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：中村（榮）、吉安、橋口、玉井、松永、田中、長嶋、長野、榎本（健）、野村

見どころ：公園とその周辺を歩きます。前回は自然林でカケス、アカハラ、アトリが、アシ原ではジョウビタキ、アオジ、シメが見られ、水辺ではカモやカモメの仲間を見ることができました。今年も皆で探しましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：12月20日（土）午後1時～2時ころ

集合：支部事務局108号

案内：今年も最後の袋づめの日になりました。多くの方々のご協力で、無事に『しらこぼと』も迷うことなく飛んでいくことができ、ありがとうございました。一年の奉仕への感謝と共に来年も引き続きよろしくお願い致します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月21日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅、新部

見どころ：今年も楽しい探鳥会が続きました。10月は青空にミサゴが飛び、田んぼには盛りのコスモスが広がって、小春日和で和やかな会でした。そんな思い出を語り合う三室にぜひおいでください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月21日（日）

集合：午前10時10分、森林公園南入り口前。
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9：59発バスにて終点下車。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、後藤、青山、喜多、山田（義）、高橋（優）

見どころ：めっきりカモが減ったのはカワウのせい。コロニーになってしまうのでは、と思われる大沼へのコースです。途中の落ち葉いっぱい森の小道で冬の小鳥を、天空に猛禽類を探しながら行きましょう。冬の森林公園は一年で最高！

年末講演会

期日：12月23日（火・祝）午後2時～午後4時30分（受付開始午後1時30分）

会場：大宮ソニック市民ホール404号室
（大宮駅西口大宮ソニックシティ4階）

受付：先着順80名まで

詳細は6ページをご覧ください。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：12月28日（日）

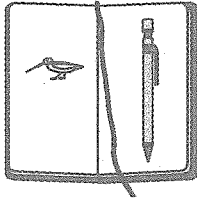
集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口。または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8：09→久喜8：29着にて、東武伊勢崎線春日部8：21→久喜8：34発に乗車、花崎8：42着。

担当：中里、玉井、長嶋、田村、四分一、宮下、伊藤（隆）

見どころ：今年最後の探鳥会です。皆が忙しい年末に、なぜか時間をもてあましているあなた、ぜひおいでください。一年間楽しませてくれた鳥たちへ感謝のご挨拶です。そして何かいいことを見つけて来年の幸運につなげよう。年の瀬の風は身にしみませ。暖かいお支度でどうぞ。

◆行事案内は6頁にもあります。



行事報告

6月1日(日) 北本市 石戸宿

雨のため中止。

7月6日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加：30人 天気：曇

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ キジ バン シロチドリ コアジサシ シラコバト キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 曇り空で秋のような? 清々しい天気恵まれた。芦原には、お目当てのヨシゴイ、ササゴイ、コヨシキリ、セッカが飛び回る。涼しさに誘われ、渡良瀬川のササゴイのコロニーまで足を伸ばし、林の小鳥もゲット。(橋口長和)

8月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：42人 天気：曇時々晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ カルガモ コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ ツバメ ヒヨドリ ウグイス コガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) それほど暑くないのに鳥が出てきてくれない。20種も観察できたのは参加者の皆さんのお陰。こんなときには草花が救ってくれる。タコノアシやミクリの花を見ることができた。これらはレッドデータブック記載の希少種。(岡安征也)

8月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：15人

新井浩、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、志村佐治、納谷美月、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、水谷真人、百瀬修

8月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：44人 天気：曇

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジバト カッコウ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ コムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (21種) 雨の予報でお盆明けというのに参加者はいつもの通り。皆さんの熱意でコムクドリが多数見られ、オオタカやチョウゲンボウも出現した。いつもと違う森のコースを家族連れで楽しんだ。(楠見邦博)

8月24日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：43人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ ハヤブサ バン シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ コアオアシシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 倒れそうな暑さの中で、シギ・チドリ類の勢ぞろいを見た。識別がほぼ終わった頃にハヤブサが出現して、谷津干潟のフルコースを味わうことができた。終了後には渡りのサシバ10羽まで出てくれてびっくり!! (杉本秀樹)

8月31日(日) 千葉県 船橋海浜公園

参加：43人 天気：曇

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ スズガモ サシバ ハジロコチドリ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ ウ

ミネコ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (32種) 久しぶりに朝から暑い。まずは西の方でシギ、チドリを見る。オグロシギもいた。それから、東の防波堤でスズガモ、ハジロカイツブリを見ていると、ムナグロ数羽とハジロコチドリもいた。鳥合わせのときには上空をサシバが通過した。(佐久間博文)

9月7日(日) 第20回リーダー研修会

参加: 36人 会場: 北本市中央公民館

普及部長が、橋口長和幹事に交代して初のリーダー研修会。本部からは安西英明・濱外晴美の両氏が参加。新規受講者3人に役員・リーダーを合わせて36人が集い、今回も有意義な研修会となった。懇親会にも21人の参加があった。(榎本秀和)



9月13日(土) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 18人

赤堀尚義、新井巖、石井智、石塚とし子、伊藤幸子、稲垣寛、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、北村隆、品田正雄、志村佐治、杉原みつ江、鈴木敬、時吉由子、中里裕一、新部泰治、増田徹、米岡茂代 ◆ さいたま市秋ヶ瀬地区で行われた。

9月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ミサゴ トビ キジバト アマツバメ カワセミ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 遅れて暑い夏が来た彼岸花が咲く土

手。空にはショウドウツバメ、アキアカネ。水辺にはミサゴのホバリング。これって秋だよな。何か変だな。(島田恵司)

9月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

新井浩、荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、水谷真人、百瀬修

9月21日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。

9月21日(日) 坂戸市 高麗川

雨のため中止。

9月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 37人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) ツバメの仲間を出迎えてから、いつの間にか半年が過ぎ、彼らを見送る季節になってしまった。入間川ではコガモが確認できず。稲荷山公園では、今年最初の冬鳥としてカケスの声が聞こえた。(長谷部謙二)

9月28日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ バン イソシギ タシギ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) ここでの最高参加者数だった。予定のシラコバト、6種のサギに加えて、ひそかに期待していたノビタキをじっくり観察したり、カラスとチョウゲンボウの10分も続いた空中戦を見られたりした。(田邊八州雄)

連絡帳

●今度は東京支部からのお願い

先月号では埼玉県みどり自然課からのお願いを掲載しましたが、野鳥の会東京支部からもカラスのねぐらについて同様の依頼がありました。

本誌昨年 10 月号に、川内博氏(和光市)の『カラスのねぐらを探してください』を掲載しました。その結果、東京圏(東京駅から半径 50km 圏)に含まれる埼玉県内のねぐらは、
1, 新座市平林寺 9000 以上
2, 所沢市狭山丘陵 1000 以上
3, 川口市グリーンセンター 1000 程度
4, 越谷市久伊豆神社 5000 近く
5, 鶴ヶ島市高倉 1000 以上

合計約 17,600 羽でした。(編集部註:先月号と合わせて見ると、県内 6ヶ所になります。)

これ以外のねぐらがありましたら、お知らせくださいとのこと。東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城の東京圏のカラスのねぐら分布図を、東京支部がまとめ役となって作り上げようというものです。

連絡先 東京支部研究部・カラス係
TEL 03-5273-5141 FAX 03-5273-5142
kawachi_hir@buzan.hs.nihon-u.ac.jp

●ただ今獵期中、ご注意!

獵期は 11 月 15 日から 2 月 15 日まで続きます。目立たない服装でやぶの中にいると、誤射される危険もあります。銃獵が行われている地域には近寄らない方が良いでしょう。やむを得ない場合でも、見通しのきく道路などにとどまるよう、ご注意ください。林の中には罠が仕掛けられていることもあります。

狩猟に関する問い合わせやご連絡は
県みどり自然課野生生物担当 048-830-3154
中央環境管理事務所 048-822-5199

西部環境管理事務所 049-244-1250
〃 東松山支所 0493-23-4050
秩父環境管理事務所 0494-23-1511
北部環境管理事務所 048-523-2800
東部環境管理事務所 0480-34-4011
〃 越谷支所 048-966-2311

●12月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土) 1月号編集作業。普及部会議。研究部会議。
13日(土) 1月号校正。
20日(土) 袋づめの会。
21日(日) 役員会。

●会員数は

11月1日現在 2,507人です。

活動報告

10月2日(木) 本部の理事会に出席(楠見邦博、海老原美夫)。
10月4日(土) ビーパルがシラコバトについての取材のため来局。橋口長和、山部直喜が対応。
10月11日(土) 11月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、藤掛保司、山田義郎)。
10月19日(日) 役員会(司会:藤掛保司、各部の報告・1月から4月の行事予定・その他)。
10月22日(水) 支部報だけの会員に向けて、11月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。奥日光探鳥会参加申し込みの公平を期するため、同封発送分と同じところに届くように、少し遅く発送しました。

編集後記

12年振りの伊良湖。サンバばらばら、チゴハヤブサ4、ハチクマ2、ハヤブサ1、……トビとアサギマダラどっさり。大岩ガキとヤシの実ジュースがうまかった。(山部)

しらこぼと 2003年12月号(第236号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社